

関係者各位

令和8年2月13日

第4回「呉の昔話」コンテスト参加のお礼及び結果報告

呉市教育会「呉の昔話」特別委員会

この度は、呉市教育会の主催する「呉の昔話」コンテストへご協力いただき、ありがとうございます。

呉市教育会では、特別委員会を設置し、先人が制作してきた「呉の昔話」を毎年3～4話のペースで電子ブック化し、それを読んでもらうために「さし絵」部門及び動画部門のコンテストを行なっています。このことを通して呉市のこどもたちの郷土愛を高めるとともに読解力・表現力・ICT活用能力を高める機会を提供することを目指しています。また、併せて新しい呉のむかし話の集録も行なっています。

今年は、動画部門において、小中学校だけでなく、高等学校、さらに地域で活躍されている一般団体等からの応募をいただきました。ありがとうございます。審査を通して、実行委員一同、このコンテストが、子ども達の持つ才能の発掘や、学校においては教育実践に活用されている手応えを感じ、喜んでいるところです。また、動画コンテストでは、地域で自主的に行なわれているボランティア活動を知る機会にもなりました。

審査結果及び作品については、「呉の昔話」のHPに公表しております。

多くの方にご覧になっていただければ幸いです。

ホームページの開き方

「[呉のむかしばなし](#)」でWeb検索

スマホ等の場合は、右のQRコードで



（入賞された皆さんへ）

賞状と副賞(入選以上の方のみ)については、2月中旬に（小中高の場合は学校を通して）お届けする予定です。しばらくお待ちください。万一、氏名・学校名・年齢等の誤りがあれば至急ご連絡ください。よろしくお願いします。（連絡先 実行委員長 若本 090-6416-2732）

第4回「呉の昔話」さし絵コンテスト入選者名一覧

1 小学校の部

<最優秀賞>

与八と天狗

呉中央小 2

中塩 琴葉

<優秀賞>

牛床の牛鬼

明立小 4

先森 景乙

音戸の舟唄

宮原小 6

新宅 珠梨

警固屋の鍋の地名が残る民話

宮原小 4

井上 和尊

下蒲刈の天狗の話

宮原小 4

坂口 心桜

吉浦の与八と天狗

宮原小 4

稲田 結介

要次郎じいさんとたこ

宮原小 4

木田 翔太

明神越え

広南小 6

樽本 輝空

二本足のタコ入道

広南小 3

福井 暁方

人魚の恋

広南小 2

遠藤 渚桜

<佳作>

牛床の牛鬼

呉中央小 4

伊藤 琉

天応の修行の話

宮原小 4

平見 旭

2 中学生の部

<最優秀賞>

吉浦の牛床の牛鬼

吉浦中 2

清水 颯太

<優秀賞>

キツネとタヌキの話

郷原中 3

内藤 陽奈海

与八と天狗

吉浦中 2

小手川 詩恩

日招きの話（警固屋）

仁方中 2

岸田 千歳

お菊のガンギ

仁方中 2

田坂 莉桜

音戸の舟唄

音戸中 3

藤中 彩那

萬屋の宮（音戸地区）

広南中 3

松岡 樺凜

涙に濡れる夜泣岩

広南中 3

河本 悠里

弘法水の話（広地区）

広南中 2

大見 和奏

仕返しをした狐の話（安浦地区）

広南中 1

池田 実莉

おさん狐とめで鯛（音戸地区）

広南中 1

佐藤 堇

<佳作>

にらみ湖の話（警固屋）

仁方中 2

國本 侑希

天狗の話（みつねの天狗）

広南中 3

泉 潤

滝のそばで修業（天応地区）

広南中 3

赤脊戸 皐

大亀の首（広地区）

広南中 3

山崎 亮汰

小滝の観音の話（広地区）

広南中 3

吉中 太悠

オトメツバキの話（宮原地区）

広南中 2

岡田 弓奈

猿神さんの話（安浦地区）

広南中 2

楠 ひなた

子泣岩の話

広南中 1

比嘉 埜乃

子泣岩の話

広南中 1

横田 絢香

笠松とグインさん（下蒲刈地区）

広南中 1

吉中 一花

与八と天狗

吉浦中 1

田中 琉樹

子泣岩の話

東畑中 2

第4回「呉の昔話」動画コンテスト（自由部門）入賞作品一覧

「楽しんで作った気持ちが伝わってくる」を審査基準に今年は10名の審査員で賞を決定

1 最優秀作品賞 「乙女椿」原井望紘（東畑中3年）



原井さんは、昨年度に続き応募。前作はBGMなど音声がなかった点が惜しまれたが、今回は音声読み上げソフトを使用しています。この点は評価が別れましたが、なにより昨年度に続き、最も困難なアニメーション作品作りに自分一人の力で二年連続挑戦した熱意に審査員一同感動し最優秀賞を授与することになりました。おめでとうございます。

2 優秀作品賞 「ひとつ目小僧の話」 恒村 暦（東畑中2年）



一枚一枚、絵を丁寧に描き、BGMなど効果音もうまく活用し見応えのある完成度の高い作品に仕上がっています。

②「要次郎じいさんとタコ」 今橋大地（東畑中3年）



背景制作には生成AIを活用し、それに手づくりの人形を使うことで見応えのある作品になっています。人形の細かな動きの工夫に感動。

3 特別賞 「若宮さんと延命の水」 ももちゃんのポケットの会



「ももちゃんのポケットの会」は、音戸地区を拠点に子どもたちに絵本による読み聞かせを行なっているボランティア団体です。音戸地区に伝わる昔話をこれまでに3作、作画から自分たちで制作されているそうです。鈴など小道具も利用し工夫して読み聞かせしている姿に感銘を受けました。呉の子ども達のためにこの素晴らしい活動を続けてくださることを願って特別賞を出すことになりました。

4 奨励賞（佳作）

①「呉市天応が宮島さんの候補地だった？！」川崎順平(昭和北中3)



「生成AIを使えば中学生でもこれだけの作品が創れるのか！」審査員一同を驚愕させた作品です。作者の「少し残念で、でもクスッと笑える昔話を、同世代の人たちにも知ってもらい、父の出身地である天応への関心を高めたい」という意図は成功しています。

②「呉のタイムスリップ」 子ども映画制作教室@呉



本作品は、「子ども映画制作教室@呉」のワークショップに集まった小中学生たちが制作した呉のタイムスリップ冒険譚。撮影・編集はプロの手を借りていますが、子供達が自分たちの発想で脚本を書き上げ 役を決め、とても楽しみながら作ったことが伝わってきます。

③「治作とお浦」 中下結登（東畑中2年）



④「お地蔵さんのたたり」 小野心愛（東畑中1）



⑤「キツネの恩返し」 原田春来（東畑中1年）



自分の選んだ呉の昔話の絵を自分の手で一枚、一枚、楽しみながら描いて、テロップや効果音なども加えながらとても楽しませてくれる作品になっています。ぜひ、次年度も素敵な作品を作って、楽しませてください。

第4回「呉の昔話」動画コンテスト（課題部門）入選作品一覧

課題「戦後 80 年、あなたの平和への想いを伝えてください」

「伝えたい熱い気持ちが伝わってくる」を審査基準に今年は 10 名の審査員で賞を決定

実施に際して、呉市教育会の有志の皆様から多くの寄付をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

1 最優秀作品賞 「平和への思い」 昭和中 きらり学級



平和学習として実際に戦争を体験された方からお話を通して学んだことを、教師と生徒が協働して動画を制作、文化祭で発信するという素晴らしい教育活動を行なっています。文化祭では、さぞ戦争体験を話された方をはじめ、多くの方に感動を与えたことでしょう。生徒達は主にナレーションとして活躍していますが、何度も練習した様子も伺えます。今年は生成 AI も活用し、見応えのある作品に仕上がっています。教師と生徒がそれぞれの特性を生かして「協働」して作り上げた作品。その名の通り、「きらり」と光る学級の作品です。

2 優秀作品賞 2 点

① 「わしは水の守り船、武智丸じゃ〜！」

呉三津田高校放送部



呉市安浦町にある「武智丸」と呼ばれ親しまれている防波堤は、実は戦時中に作られたコンクリート船です。その歴史を知る地元の方取材し、知られざる戦争の記憶をわかりやすく伝える作品です。映像や編集技術を含め、作品としての完成度はプロの作品に負けていないのではないのでしょうか。「さすが全国レベルで活躍している呉三津田高校放送部ですね」と審査員から感嘆の声。今後の活躍も楽しみにしています。

② 「オーストラリアと日本の架け橋へ」

広南中学校（道丹 岳 三谷拓夢 山田閃太郎 宇田川星湊 高松 宏輝）



長浜公園には、戦争花嫁第 1 号となった少女の物語を伝える「恋虹ベンチ」が 3 年前に地元有志の手で設置されています。以来、この物語を訪ねて、オーストラリアから多くの方が来られ、呉とオーストラリアをつなぐ架け橋となっています。2025 年秋に「二つの花」という新たなベンチが設置されました。そのベンチの設置に立ち会った中学生たちが、そのベンチのことを多くの人に知ってもらいたいと願い、制作した作品です。BGM も自分たちで演奏するなど中学生が自分たちで苦労しながら作ったことが伺われる作品です。

3 奨励賞（佳作）2 作品



「子ども映画制作教室@呉」のワークショップに集まった小中学生たちが制作した作品の中で、平和をテーマにした二作品を今回、応募いただきました。

『闘争中 ~Friends on Earth~』は、「自分たちにとっての平和とは何か」を問い、日々の当たり前の暮らしこそが平和であることに気づき、子どもたちの自由な発想が爆発した SF ファンタジーです。『無法地帯』は、「平和ってなんだろう？」か

ら、「平和じゃない世界」とはどんな世界だろう？と発想する中で生まれた作品だそうです。

このワークショップでは、子どもたちが脚本を書き、演じ、撮影して短編映画を完成させます。子どもたちが主役となって運営し、プロに教わりながら小中学生が協力し、自由な発想を大切に「やり遂げた!」という体験を届けているそうです。

2026 年もワークショップの開催を予定しているそうです。参加してみたい方は、「子ども映画制作教室のホームページ」で募集情報や詳しい内容をお知らせがあるようですので、ぜひご覧ください。